

ボルドーの「残酷な歴史の回想」

——— ワインの名産地ボルドーの繁栄は奴隷貿易による富に支えられてきた ———

37 回生 竹本 修文

第 1 章 ボルドーの「残酷な歴史の回想」(Remembering a brutal history)

1. フランス南西部のワインの名産地のボルドーの話です。フランス王ルイ 14 世（1638-1715 太陽王）の時代に、地中海から世界遺産のミデイー運河が建設されてから、ツールーズからガロンヌ川を經由して、地中海と大西洋の河川航路が完成して、ガロンヌ川左岸の中世の城郭都市ボルドーは水路交通商業で大いに栄えた（図 1）。18 世紀には、中世の城壁を取り壊して王国広場（place Royale）を建設し、19 世紀にはブルス広場(place de la Bourse)と改称され、現在もこの名称が使われている。ブルス（Bourse）とは Bourse du Commerce の事で商品取引所など商業の中心地である（写真 1）。

紀元前 1 世紀に共和政時代の執政官カエサルが率いるローマ軍が侵攻した時に、ワインを持ち込んできて以来ワインで有名だった。中世後期にはイギリス領になったがジャンヌダルクの活躍などで百年戦争に勝ってフランスに取戻し、今ではここを中心にボルドー市街の広い範囲が 2007 年にユネスコ世界遺産に登録されている。

図 1、大西洋と地中海を結ぶ河川・運河航路

大西洋側から、ジロンド川—ガロンヌ川—ガロンヌ運河—ミデイー運河

出典：“Canal du Midi” from Wikipedia



2. ボルドーを含むアキテーヌ地方の博物館長は、「ブルス（Bourse）の建物のファサード（建物の正面部分）そのものが繁栄した当時のモニュメントであり並外れた歴史的遺産ですが、石造りのファサードの裏で外から見えない建物内部を見てください。……これだけの事が出来た当時の富は何処から来たと思いますか？ボルドーは、フランスの他の所と違って 10 年以上前からこの質問の答えを探してきました。そして、これら豪華な建築物群は全てとは言わないが、奴隷貿易によって得た利益によって建設された事が分かってきました。当時の奴隷制度が、これら繁栄した時代の遺物や建築物に関わっています。」

3. そこで、ボルドー市は過去の出来事に焦点を当て始めたのです。しかし、これら醜い過去の証言物を撤去するのではなく、起きた事実を確認して、広く社会に説明すべく「歴史的記念物説明板(plaque)を作成して掲示し始めました。

写真 2 <https://www.facebook.com/BordeauxEnLuttes/videos/855005714991571/>

4. 同じような歴史を持つ他の多くの街々では、長い間沈黙を続ける事を選んできましたが、アメリカのミネアポリスで起きた警官による黒人男性のジョージ・フロイド氏の殺害事件をきっかけにして、ヨーロッパが長い間関わってきた、残虐だが、銭儲けになる、アフリカ人を奴隷という商品にして売買した貿易についての議論に火をつけ、勇気づけ、最近イギリスのプリストルで起きた植民地時代の奴隷商人の銅像を倒壊する行動に発展しました。

5. フランスにおいては、フランス革命（1789～）で証明した、万人に通じる人権尊重のチャンピオンの国民国家という優越感が強くて、長い奴隷制度と植民地経営でアフリカ人を苦しめた歴史に対する評価や反省の感覚に陰りがあったと思われる。

しかし、フランスのアフリカなどの植民地経営の過去は、アメリカにおける奴隷問題と同様に痛ましい事です。世界で最も多くの観光客を集めるヨーロッパの都市ボルドーの建物の洗練されたファサードの裏には、大西洋を跨いだ奴隷貿易と、その結果としてのアフリカ大陸の植民地化によって生み出された富が横たわっていたのです。

6. 殆どのアフリカの国々が独立を果たして何十年も経ったが、ヨーロッパにとってもアフリカにとっても、歴史的観点からみて独立が完成したとは言えない。現在ヨーロッパに住んでいる、祖先がアフリカ出身のアフリカ系移民達は、人種差別に耐え沈黙を強いられている。彼らの祖先は、恐怖のなか狂乱状態になりながら移住させられ、何世代にも亘って解決されることが無い過去と離れて民族統合する事が出来ないでいる。

セネガル生まれの Karfa Diallo 氏は“Negro Bordeaux ボルドーの黒人”というツアーを組織して、ボルドー市に対して「歴史事実を認めろ」と迫っている。彼は、警官や警察組織の意思決定をしている役人は「人種差別を容認し、黒人であれアラブ系であれフランス人であるのに、彼らの人権を無視しているが、彼らは何をしても刑法に問われない状態を維持している」と言っている。

写真3

7. 歴史研究者たちが、ボルドーの歴史を深く調べていくうちに、ガロンヌ川に面したボルドーの中心地のブルス広場の当時の荘厳な建物から、人間を奴隷化する事による商業取引で繁栄した証拠となる事実が沢山発見された。ボルドー周辺の男たちが、(アフリカ人の支配階級)が欲しが(武器等の)商品を満載した船をアフリカに送り、そこで荷物をアフリカ人に入れ替えて、大西洋を越えてカリブ海の島々に送る、そこで、アフリカ人達は売られ、農園で強制労働をさせられ、作物を生産し、それらはボルドーに運ばれてヨーロッパに売られる。

8. 2009年にアキテーヌ博物館は、フランスの奴隷貿易の中のボルドーの関わりを詳細に説明した常設展示を始めた。

https://en.wikipedia.org/wiki/Mus%C3%A9e_d%27Aquitaine

<http://www.musee-aquitaine-bordeaux.fr/en>

1672年から1837年にボルドーの180人の奴隷船オーナーが480航海で15万人のアフリカ人をカリブ海の植民地に輸送し、ボルドーをナントに次ぐフランスで2番目の奴隷貿易港にした。ボルドー市は歴史の事実を認め、2006年からガロンヌ川に沿って作られたドックに歴史的記念物説明板を掲示し始めた。時が経つにつれて標識の数は増えて市民が住んでいる地域まで広がっていくと思われる。

9.



写真1 ブルス広場 出典 New York Times



写真2 歴史的記念物説明板 出典 New York Times



写真3 Karfa Diallo氏は“ネグロ・ボルドー”というツアーを組織して、ボルドー市に対して「歴史を認めろ」と迫っている
出典 New York Times

第2章 その他ボルドーの情報

1. ボルドーにあるアキテーヌ州立博物館 Musee Aquitaine

フランスには州は無いので**州立**というのは正しくは無い。5つの県からなるアキテーヌ地方の博物館であるが、観光ガイドなどでは**ボルドー博物館**と書かれている事が多い。筆者は、ロンドンのBritish Museumは大英**博物館**、パリのMusée du Louvreはルーブル**美術館**という表現に疑問を持っている。MuseumもMuséeも英語とフランス語の違いだけだと思うが、イギリスでは博物館、パリでは美術館と分けているのは日本だけなのか？ルーブルの地下には百年戦争時代の要塞の基礎部分も発掘されて中世の土木遺跡として展示されており、美術品とは思えないけど……ボルドーの方は博物館になる……？UPL：<http://www.musee-aquitaine-bordeaux.fr/en>



写真4 博物館外観 出典 Wikipedia



写真5 奴隷の写真 出典 Musee Aquitaine の URL より



写真6 奴隸船模型の展示 出典 Musee Aquitaine の URL より



2. 図2 ボルドー地方のワイン産地 出典 週刊朝日百科 世界 100 都市 第 17 号ボルドーとナント

3. 図3. 中世の城郭都市ボルドー

市壁で囲まれたボルドーの中世都市は、イギリスの領土時代に建設されたが、この絵はゴシックの教会があり、1453 年の百年戦争終結以降に、フランス側に奪還した後と推定する。絵は、エルサレムのヘブライ大学とユダヤ人大学の図書館が所有していて、金融だけでなく奴隸貿易でも活発だったユダヤ人がボルドーでも活躍していたと想像する。数年前に筆山会で使った絵だが、何処で入手したか不明。「出典はエルサレムのヘブライ大学とユダヤ人大学の図書館」で如何？



© The Hebrew University of Jerusalem & The Jewish National & University Library

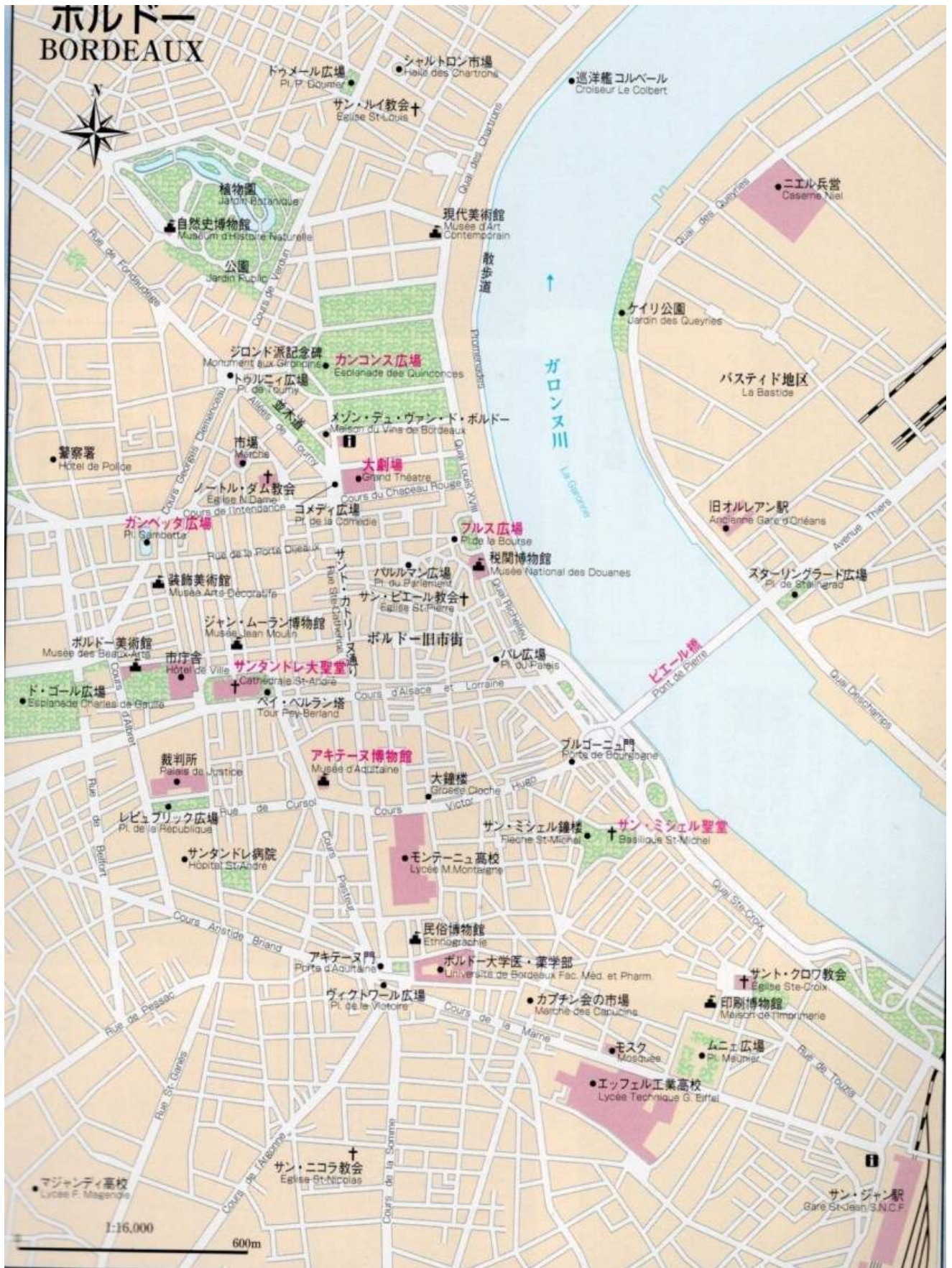


図4 ボルドーの市街地図 出典 週刊朝日百科 世界100都市 第17号ボルドーとナント